

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年 7月 7日 更新

事務事業名		工業用水道原水（取水）施設維持管理事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連						
総合計画体系	政 策	3	働く人々が輝き続けるまちづくり				所属部	水道局	課長名	久留 伸二		
	施 策	12	商工業の振興				所属課	上下水道課	担当者名	高岡英之、田中良知		
	基本事業	35	企業誘致の促進				所属班	管理工務班	(内線)	1176		
予算科目		会計企業	款	項	目	事業連番	法令根拠	地方公営企業法、水道法、合志市水道事業給水条例			成果優先度評価結果	
終了、開始年度		☐ 22年度で終了 ☐ 22年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)					

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	工業用水道の水源地施設を適切に維持管理する事業。平成10年度から水道を計画的に整備し清浄にして豊富低廉な水の供給を図り、公衆衛生の向上と生活環境の改善のために事業開始から行っている。平成10年度より工業用水を整備し、現在6社に工業用水を供給している。
【業務の流れ】	工業用水道の水源地施設（取水ポンプ、電気設備、非常用自家発電機等）の維持管理等の業務委託に関する契約事務、業務立会、結果報告、改善事務
【主な予算費目】	営業費用（原水及び浄水費全節）
【意見や要望】 関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	特に聞いているいない。

1 現状把握の部（DO、PLAN）

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO)		23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)	
工業用水道の水源地施設（電気計装、配水ポンプ、非常用自家発電機）を適切に維持管理した。		工業用水道の水源地施設（電気計装、配水ポンプ、非常用自家発電機）を適切に維持管理する。	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア 水源地施設の点検回数	回		
イ 水質の検査回数	回		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
工業用水道を利用する企業		→ ア 維持管理している水源地施設数	箇所
		→ イ	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
工業用水源地施設を事故なく適切に維持管理する。		→ ア 電気計装、配水ポンプ、非常用自家発電機の異常件数及びその比率	件
		→ イ	
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠			
工業用水道施設（電気計装、配水ポンプ、非常用自家発電機）を毎月点検することで、事故なく適正に維持管理し、工業用水を企業へ安定的に供給するため。			

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込	総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
① 活動指標	ア	回	12	12	12	12	12	12	0	
	イ	回	1	1	1	1	1	1	0	
② 対象指標	ア	箇所	2	2	2	2	2	2	0	
	イ									
③ 成果指標	ア	件	2	1	0	1	0	0	0	
	イ									
投 入 費 用 量	財 源	国庫支出金	千円							(期間限定複数年度のみ記載)
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円	7,332	6,395	7,815	12,406	8,267	7,629	
		繰入金	千円	2,242	307	10,891	3,174	5,467	1,076	
		一般財源	千円							
	人 件 費	(A) 事業費計	千円	9,574	6,702	18,706	15,580	13,734	8,705	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	81	0	56	0	
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	81	0	56	0	
		正規職員従事人数	人	5	5	5	4	5	5	
トータルコスト(A)+(B)	延べ業務時間		時間	420	420	420	260	420	420	
	(B) 人件費計		千円	1,680	1,671	1,671	1,071	1,730	1,730	
			千円	11,254	8,373	20,377	16,651	15,464	10,435	

事務事業名	工業用水道原水（取水）施設維持管理事業	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	---------------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は22年度の事後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】 目標を達成させなければ、工業用水道を利用している企業に影響が出るので、達成を見込んでいる。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 達成状態を維持するものとする。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業がない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 最小限の予算で維持管理を行っているので削減余地はない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 原水（取水）施設を維持管理するために必要最小限の人員であるため削減余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 すべての工業用水道使用者に受益機会があるため公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】 現在、市に代わる事業者がいないので、移行できない。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																								